



## 2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年8月10日

上場会社名 オイシックス・ラ・大地株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3182 URL <https://www.oisixradaichi.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高島 宏平  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画本部 (氏名) 松本 浩平 (TEL) 03-6867-1149  
 本部長 (代表)  
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		EBITDA(※1)		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	27,901	△0.0	962	△50.7	1,498	△35.3	587	△54.6
2022年3月期第1四半期	27,911	20.7	1,950	△6.1	2,316	△4.2	1,293	9.3

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 787百万円(△46.2%) 2022年3月期第1四半期 1,464百万円(30.5%)

(※1) EBITDAは、営業利益+減価償却費+のれん償却額としています。

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	16.07	—
2022年3月期第1四半期	35.41	35.38

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	52,765	24,672	43.5
2022年3月期	52,634	23,872	42.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 22,933百万円 2022年3月期 22,132百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		EBITDA		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	120,000	5.7	4,500	7.9	6,500	4.6	2,500	△8.3	68.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年3月期1Q	38,028,092株	2022年3月期	38,014,892株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2023年3月期1Q	1,469,875株	2022年3月期	1,469,831株
------------	------------	----------	------------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年3月期1Q	36,549,142株	2022年3月期1Q	36,536,119株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染者数減少にともない、2022年3月にまん延防止等重点措置が解除され、経済活動制限の緩和や、外食・連休中の外出などの消費活動に回復が見られました。しかしながら、ウクライナ情勢の長期化懸念に起因する物価高や急激な円安進行など、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

一方、継続的な外出自粛要請やリモートワークの普及などのライフスタイルの変化により、オンライン経由の購買行動は定着化しつつあり、お客様の新しい生活スタイルに対応した食品宅配に対する消費者の需要は引き続き高い状態が続いております。

このような環境の中、当社グループにおいては、食を支えるインフラ企業として、安定的な出荷キャパシティや商品サプライの確保に取り組むとともに、お客様の家庭での食の在り方が大きく変化する中で、「健康・免疫意識の高まり」、「家庭での食事頻度・人数の増加」など新しいお客さまニーズに沿った商品・サービスを提案するなど、新型コロナウイルスによる変化対応を優先的に実施してまいりました。また、経営戦略の柱である「国内宅配事業の成長・収益力強化」に向け、カスタマーエクスペリエンスの進化およびローコストオペレーションの取組みの実行や、「サステナブルリテール戦略」に基づいた温室効果ガス削減・フードロスの削減への取組みを強化しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は27,901百万円(前年同期比0.0%減)、営業利益は962百万円(前年同期比50.7%減)、EBITDAは1,498百万円(前年同期比35.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は587百万円(前年同期比54.6%減)となりました。

#### ① 宅配事業(O i s i x)

インターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業(O i s i x)は、共働きの子育て世代を主要ターゲットとし、プレミアムな時短を実現する商品、サービスを提供しております。会員数については、行動制限が緩和されたことなどの影響により既存会員の解約率が感染症拡大前の水準にまで戻りつつあることに加え、新規獲得は効率を注視しながら費用を投下しており、前連結会計年度末(2022年3月末)の346,083人から、当第1四半期連結会計期間末(2022年6月末)には350,650人へと約4,500人の増加となりました。

セグメント利益は、前第4四半期連結会計期間に発生した新物流センターへの移転トラブルからのリカバリーは計画通りに進行し物流コストが徐々に削減されているものの、感染症拡大影響によるARPU上昇がみられた前年同期と比べ減少しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	14,393百万円(前年同期比 1.8%増)
セグメント利益	1,953百万円(前年同期比 5.1%減)

#### ② 宅配事業(大地を守る会)

カタログやインターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業(大地を守る会)は、シニアの二人暮らし世帯を主要ターゲットとし、「ちゃんとした食生活」のコンセプトの元、ターゲットニーズに沿った新サービスの開発、磨き上げに注力しております。前年より継続して、シニア層が手軽に健康実感できるコースである「まるごはん」を活用した新規獲得のチャレンジを行っております。会員数は、前連結会計年度末(2022年3月末)の45,534人から、当第1四半期連結会計期間末(2022年6月末)には43,955人へと減少しております。

また、売上高については、手軽に野菜を摂取できる商品・サービスの開発強化などの施策により、当初計画の想定に対してARPUは順調に推移しているものの、感染症拡大影響によるARPU上昇や会員数の下支えがみられた前年同期の売上高と比べ減少しております。セグメント利益については、売上高減少に伴い事業活動による利益は減少しましたが、2017年の株式会社大地を守る会買収に関連したのれん償却が前連結会計年度で終了し、償却負担が減少しました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	3,070百万円(前年同期比 7.3%減)
セグメント利益	624百万円(前年同期比 8.5%増)

③ 宅配事業(らでいっしゅぼーや)

カタログやインターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業(らでいっしゅぼーや)は、料理を通じて社会貢献をしたい世帯を主要ターゲットとし、「ふぞろいRadish」などの商品、サービス開発を進めております。会員数については、2022年3月に配送料改定を実施したことによる一時的な解約が発生したものの、前連結会計年度末(2022年3月末)の65,093人から、当第1四半期連結会計期間末(2022年6月末)には65,297人へと微増しております。

また、売上高については、当初計画の想定に対してARPUは順調に推移しているものの、感染症拡大影響によるARPU上昇がみられた前年同期と比べ減少しております。セグメント利益については、事業構造の筋肉質化が進んでおり、前年同期と比べわずかに増加しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	4,190百万円(前年同期比 3.3%減)
セグメント利益	591百万円(前年同期比 1.2%増)

④ 宅配事業(Purple Carrot)

米国で、ヴィーガンに特化したミールキットの宅配事業を展開するPurple Carrotは、米国における経済活動の再開をうけ、売上高は会員数が前期第1四半期を頂点に段階的に減少しているため、またセグメント利益については売上減影響に加え、原材料や人件費のインフレ影響のため、ともに前年から減少いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	2,586百万円(前年同期比 9.0%減)
セグメント損失	137百万円(前年同期比 124.9%減)

⑤ その他事業

当セグメントは、ソリューション事業、店舗事業、海外事業(Purple Carrotを除く)、卸事業等からなるその他事業であります。

食品宅配需要の増加により、他社EC支援(ISETAN DOOR、dミールキット)などのソリューション事業の会員数が増加したことや、前年同期に新型コロナウイルス感染症のマイナス影響を受けた保育園卸・水産品卸(豊洲漁産直市場)などの卸事業の業績が回復、伸長したことにより、全体では売上高・セグメント利益ともに大幅に増加いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	3,969百万円(前年同期比 17.7%増)
セグメント利益	435百万円(前年同期比 19.7%増)

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して131百万円増加し、52,765百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して467百万円減少し、28,046百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少164百万円、棚卸資産(商品及び製品、仕掛品、原材料及び貯蔵品)の減少182百万円、売掛金の減少67百万円、未収入金の増加321百万円、その他流動資産の減少385百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して599百万円増加し、24,718百万円となりました。これは、有形固定資産の減少129百万円、無形固定資産の増加59百万円、投資その他の資産の増加669百万円によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して668百万円減少し、28,093百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して526百万円減少し、15,388百万円となりました。これは主に、買掛金の増加148百万円、未払金の減少772百万円、未払法人税等の増加171百万円、契約負債の増加25百万円、その他流動負債の減少92百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して142百万円減少し、12,704百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少7百万円、リース債務の減少132百万円によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して800百万円増加し、24,672百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益587百万円、為替換算調整勘定の増加204百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年5月13日付「2021年3月期決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想は当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,071	12,906
売掛金	8,964	8,896
商品及び製品	1,950	1,793
仕掛品	83	75
原材料及び貯蔵品	532	515
未収入金	2,927	3,248
その他	1,217	831
貸倒引当金	△232	△220
流動資産合計	28,514	28,046
固定資産		
有形固定資産		
リース資産(純額)	12,330	12,150
その他(純額)	4,152	4,203
有形固定資産合計	16,482	16,353
無形固定資産		
のれん	1,261	1,281
その他	2,271	2,311
無形固定資産合計	3,533	3,592
投資その他の資産	4,103	4,772
固定資産合計	24,119	24,718
資産合計	52,634	52,765
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	6,188	6,336
短期借入金	1,010	1,010
1年内返済予定の長期借入金	39	36
リース債務	692	695
未払金	5,855	5,082
未払法人税等	226	397
契約負債	250	276
賞与引当金	—	1
ポイント引当金	151	142
その他	1,501	1,409
流動負債合計	15,914	15,388
固定負債		
長期借入金	101	94
リース債務	11,956	11,823
役員退職慰労引当金	8	8
資産除去債務	561	560
繰延税金負債	29	28
その他	190	189
固定負債合計	12,847	12,704
負債合計	28,762	28,093

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,994	3,995
資本剰余金	8,015	8,016
利益剰余金	14,448	15,035
自己株式	△4,503	△4,503
株主資本合計	21,954	22,544
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16	23
為替換算調整勘定	160	365
その他の包括利益累計額合計	177	388
非支配株主持分	1,739	1,738
純資産合計	23,872	24,672
負債純資産合計	52,634	52,765



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	27,911	27,901
売上原価	14,171	14,405
売上総利益	13,739	13,496
販売費及び一般管理費	11,789	12,534
営業利益	1,950	962
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	0
受取補償金	3	4
補助金収入	9	—
資材リサイクル収入	1	1
償却債権取立益	2	3
その他	5	16
営業外収益合計	22	26
営業外費用		
支払利息	4	27
為替差損	4	—
持分法による投資損失	23	51
その他	2	1
営業外費用合計	34	80
経常利益	1,938	908
税金等調整前四半期純利益	1,938	908
法人税、住民税及び事業税	468	335
法人税等調整額	194	△4
法人税等合計	662	331
四半期純利益	1,276	576
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△17	△10
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,293	587

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	1,276	576
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△10	13
為替換算調整勘定	200	204
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	△7
その他の包括利益合計	188	210
四半期包括利益	1,464	787
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,482	798
非支配株主に係る四半期包括利益	△17	△10

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	調整額	四半期連結損益計算書計上額
	宅配事業 (Oisix)	宅配事業 (大地を守る会)	宅配事業 (らでいっしゅぼーや)	宅配事業 (Purple Carrot)	計			
売上高								
日本	14,145	3,314	4,331	—	21,790	3,080	—	24,871
米国	—	—	—	2,830	2,830	—	—	2,830
その他	—	—	—	—	—	209	—	209
顧客との契約から生じる収益	14,145	3,314	4,331	2,830	24,621	3,290	—	27,911
外部顧客への売上高	14,145	3,314	4,331	2,830	24,621	3,290	—	27,911
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	11	11	83	△94	—
計	14,145	3,314	4,331	2,842	24,632	3,373	△94	27,911
セグメント利益	2,057	575	584	549	3,767	363	△2,181	1,950

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソリューション事業・店舗事業・海外事業(Purple Carrotを除く)・卸事業等を含んでおります。
2. 「調整額」のセグメント利益における主な内容は、固定人件費及び各事業セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	調整額	四半期連結損益計算書計上額
	宅配事業 (Oisix)	宅配事業 (大地を守る会)	宅配事業 (らでいっしゅぼーや)	宅配事業 (Purple Carrot)	計			
売上高								
日本	14,393	3,070	4,190	—	21,655	3,408	—	25,063
米国	—	—	—	2,576	2,576	—	—	2,576
その他	—	—	—	—	—	261	—	261
顧客との契約から生じる収益	14,393	3,070	4,190	2,576	24,232	3,669	—	27,901
外部顧客への売上高	14,393	3,070	4,190	2,576	24,232	3,669	—	27,901
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	9	9	300	△309	—
計	14,393	3,070	4,190	2,586	24,241	3,969	△309	27,901
セグメント利益又は損失 (△)	1,953	624	591	△137	3,032	435	△2,505	962

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソリューション事業・店舗事業・海外事業(Purple Carrotを除く)・卸事業等を含んでおります。
2. 「調整額」のセグメント利益における主な内容は、固定人件費及び各事業セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。